

「人生、楽しくてしょうがない」 現役の役者であり、漁師。

— 加藤茂雄さん



大正14年生まれ、現役の俳優・漁師。江戸時代より続く「長四郎網」の分家に生まれ、鎌倉アカデミアを卒業後、東宝の専属俳優として数多くの作品に出演。独立後は、映画やドラマ、舞台上で活躍。鎌倉アカデミアを伝える会の会長も務める。

由比ヶ浜の波打ち際、潮端（しょんばた）を台本を持ちながら歩く加藤茂雄さん八十八歳は、現役の役者さんであり現役の漁師さん。江戸時代から鎌倉で続く地引き網漁「長四郎網」の家生まれ、漁を手伝いながらも、戦後、材木座の光明寺で開校された「鎌倉アカデミア」の「演劇科」第一期生として進学する。卒業後は、役者の道を進み、黒澤明監督の「七人の侍」を初め、数多くの映画に出演。「ゴジラの足元の避難民」を演じ、ウルトラマンでは、「リーダー室隊長」、その他にも酔っぱらい、ケーキ店店長など様々な役を演じ、数千本以上の映画やドラマに出演する名脇役である。また、役者の傍ら、朝は漁師として海に出た。

六十五歳で初めて挑戦したという舞台。この日も翌月に控えた舞台の台詞を読み込み、役づくりをしていた。様々な役を演じてきた加藤さんの稽古場は、昔から散歩コースの海岸だ。海辺の少し高台になっている丘がステージ代わりとなり、波打ち際の潮端を何度も歩いて、台詞を覚え、役のイメージ



▲ 水揚げされたわかめを一枚一枚、丁寧に干していく



▲ 公園の高台で一人稽古をする加藤さん。

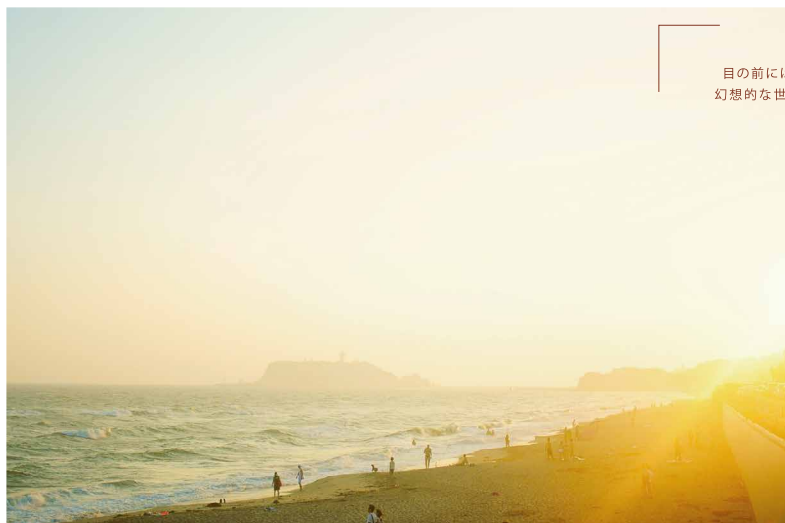
を作った。これは若い時からずっと変わらない。舞台の公演も満員御礼で閉幕した。先日、黒澤明監督の研究で訪問してきた女子大生も、舞台に来てくれたという。「この歳になって、またファンが増えたよ。人生楽しくてしょうがないね。ガハハハ」。加藤さんは、一度会った人を虜にしてしまう。

公演が閉幕した翌朝も、わかめ漁のため、鎌倉の海岸に加藤さんはいた。収穫されたわかめを手際良く一枚一枚、丁寧に干していく。現在、地引き網の「長四郎網」はお休み中だが、担い手が戻れば、地引き網を再開する予定だ。次の世代に地引き網の技を継承していく。また、鎌倉アカデミアの継承のため「鎌倉アカデミアを伝える会」の会長も務めている。それに、養老施設などを周り、昔の歌を歌いながら同世代の高齢者を元気づけてもいきたい「やることは、まだまだあるよ」と話してくれた。現役の漁師の仕事が加藤さんの健康を支え、これからも現役の役者として、アカデミアの卒業生として、人生をもっともっと楽しまれていくに違いない。

文・宮部誠二郎 写真・小鮎秀仁

【公演のお知らせ】 2013年5月中旬に光明寺で「鎌倉アカデミアを伝える会」による年に一度の公演を予定。

カマクラ散歩旅。



目の前には
幻想的な世界



浄妙寺の美しい庭を
眺めながらのお抹茶は
なんとも贅沢。



太陽の光を浴びて
すくすく育った
色鮮やかな鎌倉野菜

そんなことを考えていたらふわりと潮風が私たちを通り過ぎる。缶ビールで夕陽に乾杯。今夜お世話になる宿「亀時間」へ向かうことにした。亀時間に着くとオーナー、マサさんの優しい笑顔が旅の疲れを癒してくれる。今夜はいい夢みれそうだ。

ずっとここに居たい。

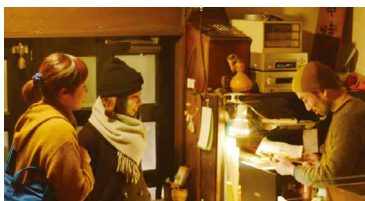
午後2時。鎌倉駅にいったん戻り、バスに揺られること10分。春は桜がきれいな並木道を歩いて「浄妙寺」に到着。落ち着いた雰囲気を訪れる人を優しく出迎えてくれる。美しい庭を眺めながらのお抹茶はなんとも贅沢。目を閉じてほかに甘い抹茶、風と緑の匂いを感じる。心身共にほっとできる大切な場所だ。旅の終わりに夕日が見たくなって、江ノ島へ。海はオレンジ色に輝いて、サーファーも、トンビも、海岸にいるみんなが淡いオレンジの光に包まれている。きれい。

「おいしいよ！元気になるよ！」と元気に売るおばちゃんのとびっきりの笑顔。最高だ！太陽の光を浴びてすくすく育った色鮮やかな鎌倉野菜は見る者にパワーをくれる。でもやっぱり食べたい。ランチはレンバイ横の「コバカバ食堂」で決まり。美味しく健康的なご飯はいつも絶品だ。日替わり定食を注文。お腹も心もポンポン満たされた。

「穏やかな風が漂う商店街を歩いていると、焼きたてのパンの匂い。日進堂だ。ふわふわのクリームパンをパクリ。やさしい味。お惣菜とお酒が楽しめる「オイイチ」へ。店内もかわいい。ケータリングもできるので材木座海岸で食べるのもいいかも。次は鎌倉野菜即売所「レンバイ」へ。ここは朝8時から新鮮で美味しい鎌倉野菜を販売している。

午前10時30分、鎌倉駅改札前で待ち合わせ。さあ旅の始まりだ。まずは駅から徒歩10分の大町商店街へ。

町に住んでいるような長期滞在も楽しめる安価な宿泊施設のことを「ゲストハウス」と呼びます。



カムフラ。つながる旅。

この波の音を聴くために、風を感じるために、朝日を浴びるために、私たちは鎌倉の朝に会いに来た



この波の音を聴くために、風を感じるために、朝日を浴びるために、私たちは鎌倉の朝に会いに来た。ゲストハウスから海まではちょうどいい距離の散歩コース。普段は車や人でいっぱいの若宮大路だけど、朝はとも静かで広々としていて、海からの風と音がまっすぐ身体に伝わってくる。寄せては返す波の音を聴きながら、頬で感じるのは海から吹いてくる少し冷たい風と朝日の温かさ。自然の音、温度、光を感じることで、すごく特別なようで本当は誰でも当たり前にできることだったんだ。作られた音や光の中で暮らしている日常では味わえない感覚。この感覚はちょっと癖になりそう。



五感で感じるすべてのものが、生まれただけのように透き通っている。

だんだんと起き始めた街を通り抜けながら、光明寺到着。朝日に照らされた本堂と、背景に広がる山々がなんとも美しい。山と海に囲まれた鎌倉の朝に溢れる気持ちよさと自然の流れを、自分の感覚を研ぎ澄まして感じてみよう。この街は、人時間ではなく自然時間で一日が始まっているのだ。

(文・萩原有美子) はぎ 佐々木望(のん) 写真・原田教正)

ゲストハウスに戻り、朝食のトーストとおいしいスープでお腹を満たす。宿泊者同士、初めましての人とでも「おはようございます」のあいさつをすれば、そこには自然と会話が生まれる。朝食後は、ゲストハウスのオーナーおすすめの光明寺へ。

